

2021年度（2022年3月期）年度末決算発表説明会

Q & A

- Q 1 : 21年度実績の経常利益について、第3四半期決算時の見通しから+237億円増加しているが、その主な要因は何か。
- A 1 : 電力については、1～3月の需要ピーク期において、低気温等に伴う需要増に対応するため、価格が高騰していたJEPXからの調達量を増加させたこと等により減益（▲9億円）となった。一方、都市ガスについては、低気温に伴う販売量の増加に加え、原料費調整に伴う販売単価増等により増益となった（+130億円）。また、営業外損益については、ドル建て資産における為替差益の発生等により増益（+109億円）となった。
- Q 2 : 事業環境が大きく変化する中、次期中計の策定において、新セグメントではどの分野・事業で利益を伸ばし、資本効率を高めていくのか、注力していくポイントを教えてほしい。
- A 2 : 利益を積み上げていくため、次の2点について注力していく。1点目は、お客さまアカウント数の増加およびお客さま毎の利益の積み重ねである。2点目は、再エネを中心とした海外事業や、新規分野等におけるストックの積み上げによる利益成長である。そのうえで、急速に変化する事業環境に対応するため、積み上げたストックがリスクにならないよう、行使できるオプションを持ち、利益をコントロールしていく。
- Q 3 : 指名委員会等設置会社へ移行し、以前と比べ機動的に投資を実行できる状況になったと考えるが、22年度見通しにおける海外事業への投資規模をさらに拡大し、利益の底上げが可能となるのか方向性を教えて欲しい。
- A 3 : 2020年度において、北米の再エネ投資や、オクトパスエナジー社への出資など大規模な投資を行ってきており、今後は、それらを上回るような規模の投資が発生する可能性もあるが、現時点では確度が高くなく、計画に織り込めていない部分もある。投資の拡大に合わせ、Compass Actionで掲げた資産ポートフォリオの入替についても実施し、海外事業の利益成長を図っていく。

以上